

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Cigarettes and alcohol in relation to colorectal cancer: the Singapore Chinese Health Study. タバコ喫煙およびアルコールと大腸癌との関連：中国系シンガポール人健康研究	
執筆者	
Tsong WH, Koh WP, Yuan JM, Wang R, Sun CL, Yu MC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Br J Cancer. 2007 Mar 12;96(5):821-7.	
キーワード	
(紙巻たばこ) 喫煙、アルコール飲酒、大腸癌、中国系シンガポール人	
要 旨	
<p>目的： 「中国系シンガポール人健康研究」コホートにおいて大腸癌と喫煙および飲酒との関連を検証した。</p> <p>方法： 中国系シンガポール人である 63257 人の中高年男女からなる地域住民を基にした前向きコホートを対象とした。1993 年から 1998 年にかけて参加者登録を行い、このときに個人面接によって、たばこ喫煙・アルコール飲酒に関する基礎データを集めた。</p> <p>結果・結論： 2004 年 12 月 31 日までに 845 人のコホート参加者が大腸癌を発症した (516 例結腸、329 例直腸)。非飲酒者に比べると一週間当たり 7 ドリンク (1 ドリンク=アルコール換算 12~13g) 以上のアルコール飲酒者は大腸癌発症の危険度が有意に高くハザード比にして 1.72 (95%信頼区間 1.33-2.22) であった。喫煙に関しては有意なリスク上昇は直腸癌においてのみ認められた。非喫煙者と比較した場合、直腸癌発生のハザード比は少量喫煙者で 1.43 (1.10-1.87)、大量喫煙者で 2.64 (1.77-3.96) であった。 喫煙と飲酒とは直腸癌の危険度において相加的に作用していることが示唆された。このことはこの二つの暴露因子 (喫煙、飲酒) が直腸癌発生における共通経路を介して作用していることを示唆している。</p>	